

第5回

ミッション×中学校生活

一人ひとりの成長を考えた指導とは？

「ミッション」の名で親しまれている北陸学院では、1885年の創立以来キリスト教の教えに基づいた人格教育が受け継がれてきました。少人数制をとる北陸学院中学校は、生徒と教職員が真摯に向き合う中、一人ひとりの潜在能力を引き出し、自主性を高めていくという独自の教育を展開。その丁寧な指導方法は教育関係者を中心に高い評価を得ています。本号では、中学1年生の学級担任を務める小野雅史教諭に、特徴的な取り組みについて語っていただきます。

個の力を伸ばす、丁寧な教育

自学・自習の定着



登校から始業までの時間を利用し、漢字や英単語、計算などの基礎プリントに取り組み朝学習や、毎日の提出を必須とした自主学习用テキストを実施。生徒たちが隙間時間に効率よく勉強できるようサポートしています。

探究的な学び



一方的な教え込みの勉強だけでなく、「自ら考え、学びに向かう力」を育てるために、独自の探究学習を実践しています。次世代を担うために必要とされている「思考力」「判断力」「表現力」を培っていきます。

多彩な学校行事



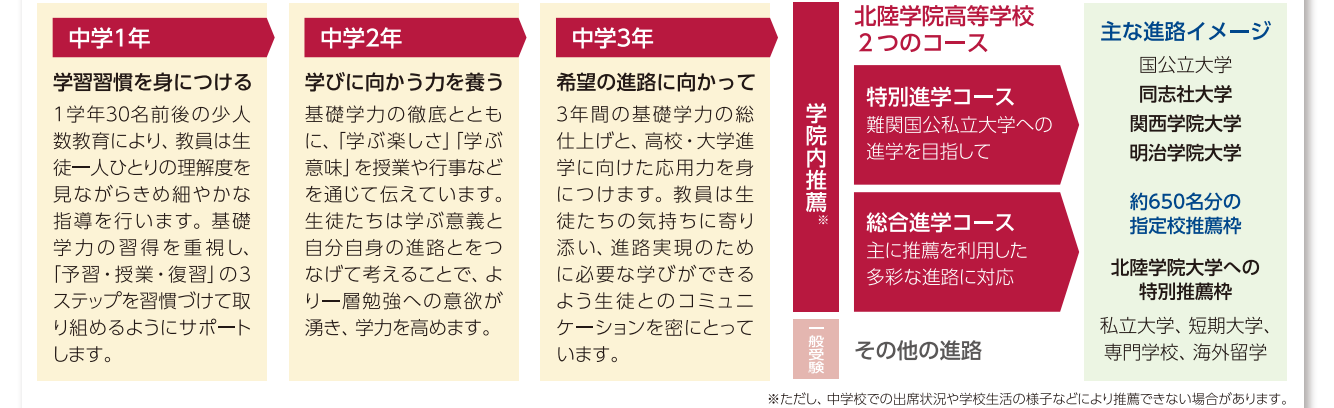
本校では、仲間とともに作り上げる行事や、ボランティアを経験する行事が盛りだくさんです。目標に向かって夢中に取り組む経験は、かけがえない思い出を作るとともに、人としての成長にもつながります。

未来を見据えた学び



教育方針「勉強プラスもうひとつ」を通して、生徒たちはさまざまな経験をします。その経験を北陸学院高等学校に進学してさらに深め、大学、その先の進路へとつなげるために、教員は生徒たちに寄り添った指導をします。

学習の流れ



主役は生徒、教員は脇役。 生徒全員が主演する 学級づくりを。



北陸学院中学校
数学科教諭
おの まさし
小野 雅史
Masashi Ono

1989年生まれ、石川県白山市出身。東京理科大学理学部数学科卒業、同大理学専攻科修了。2014年から講師として石川県内の公立中学校で教壇に立つ。2016年に北陸学院中学校に着任、中高両校で数学科を担当。現在は中学校1年生の学級担任の他、中高合同の陸上競技部顧問などを務める。

少人数教育だからできる 生徒の自主性を育てる指導

北陸学院中学校は1学年1学級、全校で3クラスあり、私が学級担任を務める1年生の生徒数は29人です。北陸学院小学校の出身者の他、本校の国際理解教育に関心のある生徒や、きめ細かな少人数教育に惹かれた生徒たちが通ってきています。本校は、何事にも積極的な生徒が多いですね。学級委員にも我先にと立候補しますし、授業中は質問者が続々。生徒と教員の距離が近く、親と喧嘩しました！などと相談を持ちかけられることもよくあります。そんな生徒たちの力をさらに高めようと私が取り組んでいるのが、教員は極力前に出ず、生徒が自ら考え、自ら答えを導き出す授業です。数学の時間であれば、私が投げかけた問いについて、どう解いたかを生徒に説明させ、質問にも生徒が答えます。自分の力で解決すると腑に落ちて理解が深まることも、表現力や判断力などの向上にも繋がるからです。学級活動や部活動も同じで私はゴールだけ示し、生徒が考え、行動するのを横で見守ります。失敗した場合はなぜ失敗したのか、理由を考えさせて前進の足がかりにしています。生徒の主体性を重んじる指導には一人ひとりへの丁寧な対応が不可欠で、時間や労力を要しますが、それができるのは少人数教育だからです。教員が思うままに挑戦できる環境にとってもやりがいを感じています。

北陸学院独自の学校行事が 一人ひとりの力を引き出す

多彩な学校行事を通じて人間力の養成を図っている点も本校の特長です。例として7月に行った演劇コンクールの様子をご紹介しましょう。この行事は学級対抗で、毎年夏休みに入る直前に開催しています。1カ月前から準備に入り、演目の決定や脚本制作、配役、裏方などすべてを生徒の手で行います。私の学級は1年生ですから、当然みんなが初体験。折々に相談には乗りましたが、後は生徒たちに任せました。演目を選ぶ際は、自分がやりたい題材を持ち寄ってプレゼンで決めましたし、キャストینگについても、重要な役には志望者が複数出たためオーディションで選んでいました。生徒たちの意欲や発想には驚かされるばかりで、自分の中一の頃とは比べものになりませんね。また練習が進むにつれ、友達の良い点に気づいたり、足りないものを全員で補いあったりする中でコミュニケーション力が鍛えられたように感じます。人前に出るのが苦手な生徒は道具や音響・照明などを担当しましたが、自分の存在が役立つことが実感できて自信が繋がった様子。クラスの全生徒が活躍の場を持てるいい機会となりました。本番は練習以上の出来となって大成功でした。喜びあいながらも、先輩たちの姿を見て「来年はもっと」と前を向く表情が頼もしかったですね。

生徒主導の学級運営 変化に対応できる力を養う



来年度からの大学入試改革でも問われているように、時代は今、自分で考え、自分で答えを出せる人間を必要としています。AIやコンピュータが経験をもとに判断を下すものがあるならば、未知の変化に対応できるのが人間の長所。社会変化に対応えられる人間を育てることが教員である私の使命だと考えています。ですから初めに述べたように、私が目指すのは、教員がいなくても生徒だけで成立するような授業であり学級づくりです。大人に聞けば答えは簡単に手に入りますが、それでは社会に出てから路頭に迷ってしまう。自分で答えを見出せる人間を一人でも多く世に送り出したいですね。そのためにも生徒には、社会に対して自分は何ができるかということに気づいてもらうことが重要です。生徒が使命を見つけられるよう、今後もサポート役に徹したいと思います。

学校・入試説明会のご案内

参加お申し込みは、本校配布のチラシ申込書をFAX、またはホームページよりお願いします。

北陸学院中学校

Hokuriku Gakuin Junior high school

▶学校説明会

9月21日(土)午前 申込締切 9/13(金)

▶入試問題解説会

10月19日(土)午後 申込締切 10/11(金)

●対象/小学5・6年生の児童とその保護者

北陸学院高等学校

Hokuriku Gakuin high school

▶学校・入試説明会

11月16日(土) 申込締切 11/8(金)

11月23日(土・祝) 申込締切 11/15(金)

12月7日(土) 申込締切 11/29(金)

●対象/中学2・3年生とその保護者



確かな結果へとつなげる 大学への「進学力」

本校では、生徒の志望を尊重し、難関大学への進学から就職までの幅広い進路の実現を目指します。中学生の時期は、さまざまな経験を通して将来どんな自分になりたいのかを考えさせ、高校生になった時に進路を具体化できるよう指導しています。高校と併設していることにより、高校の進路指導担当教員にも相談することが可能です。

パブリシティ企画

Hokuriku Gakuin
Junior High School

北陸学院 中学校

中高を北陸学院で過ごした生徒の主な合格実績 (2015年度～2018年度卒業生)



北陸学院中学校・演劇コンクール

中学校で毎年開催している演劇コンクールは、特に盛りあがりを見せる行事です。今年優勝したのは3年生。現代とは全く異なる時代に生きた人々を描いた難しいストーリーですが、生徒たち自身が脚本から手掛けた力作です。チャペル全体を効果的に使い、当時の人々の心境や緊迫感が伝わってくる迫真の演技が観客を魅了しました。



1年「High School Musical」



2年「West Side Story」



3年「戦場のピアニスト」



お互いを
尊重しながら
作り上げた演劇

[北陸学院中学校1年生]

嶋花音さん

生徒インタビュー

私は北陸学院小学校の時にも演劇を経験し、自分の役割に責任をもつことを学びました。中学校の演劇は、舞台セットを一から作り上げる必要があり、小学校の時よりますます準備が大変です。クラス内で意見がぶつかり合った時には、良い舞台にするために大切なことを考え、お互いの意見を取り入れることを心掛けました。その結果、本番はみんなが楽しめたと同時に、上級生の演劇に圧倒されました。来年はもっと一致団結した演劇ができるように頑張ります。

同志社大学 関西学院大学 明治学院大学

特別推薦枠で
憧れの難関私立大学へ!



本校は同志社大学に14名、関西学院大学に21名、明治学院大学に6名の特別推薦枠を有しています。実際、2019年度入試結果においても、同志社大学に10名、関西学院大学に9名、明治学院大学に5名の合格者を輩出。県内でこれらの大学に最も近い学校といえます。他にも全国におよそ130大学・約650名の指定校推薦枠を有しています。

※募集枠は毎年変更があります。詳しい指定校一覧はHPよりご確認ください。

ミッションならでの、「学ぶ環境」!



グロリア・チャペル
毎朝の礼拝を行うチャペルです。創立100周年を記念して導入したパイプオルガンの音色に心を落ち着かせ、自分と向き合います。



電子黒板



学習スペース

すべての教室に設置。動画や音声、画像を使いながら授業を行うため、生徒の興味・関心を引くことができます。生徒たちが、教員に質問しやすい環境を職員室前に整備。休み時間や放課後に活用しています。